

石西礁湖自然再生協議会 第1回海域対策ワーキンググループ議事概要

日時：平成24年4月5日（木） 18：00～

場所：八重山漁業共同組合

参加者

八重山漁協（伊良部・與儀）、石垣市（上地・金城・下地・松本）、小浜島ダイビングサービス（野口）、嘉弥真島シーテクニコ（前田）、環境省石垣自然保護官事務所（千田・平野・春口）、沖縄県水産環境センター（秋田）、八重山ダイビング組合（佐伯）、石垣島マリンレジャー協同組合（富岡・萩原・益子）、シーピーファーム（雨宮）、（ ）石垣島協同組合（戸部）、竹富町企画財政課（勝連）、西海区水産研究所（鈴木）、竹富町ダイビング組合（竹内）、内閣府石垣港湾事務所（林）、沖縄県自然保護課（渡嘉敷・神谷）

事務局：八重山漁協、石垣市水産課、内閣府石垣港湾事務所、環境省石垣自然保護官事務所

はじめに

- ・ 出主席者による自己紹介
- ・ 事務局を代表して八重山漁業協同組合より資料の確認
- ・ 環境省石垣自然保護官事務所より、今後の、ワーキングの進め方を提案

長期目標・短期目標を定めており長期目標は、30年をめぐりに国立公園に指定された当時の姿を取り戻そうと、その為に短期目標を10年をめぐりに設定をしています。（平成19年9月）ただ現状として目標達成に向かっているかというとなかなかそうとも言えず、より実働性のある取組を地元中心に行うために、今回陸域対策、海域対策、普及啓発、学術調査、の4つのワーキンググループを立ち上げることになりました。

海域ワーキングの中に、取組の例としてオニヒトデ対策、水産資源管理、海域の適正利用と有ります。ただ海域対策といっても、分野も多岐にわたるので、関係する者が小グループを作って進めていくのが良いのかと思っています。また、この中でオニヒトデ対策は八重山オニヒトデ対策協議会の関係者漁協、県、市、環境省、それぞれ行政機関で事業としてオニヒトデの駆除場所をみんなで重点的にしてまいりましたが、今後は、オニヒトデ協議会を今後海域対策ワーキングの中の小グループとして取り組みたいと考えております。また、場合によっては生活部会と言う様な形でオニヒトデ対策に対して部会を立ち上げると言う形にするのも有ると思います。

とは言っても具体的な取組のイメージが湧きにくいでしょうから、以前、生活利用部会でまとめた海域の利用ルール等について、ご説明いただこうと思います。

・ 石垣港湾事務所

生活利用部会事務局の、竹富町、石垣港湾事務所を代表して説明を致します。

生活利用部会は平成19年8月に第1回を開催致して以来9回開催をしております。

内容として、自然再生と地域住民の生活を両立すると言う1つ大きなテーマを掲げまして前半は、グループディスカッションにてご意見をもらい船会社にヒヤリングをしたり、海域利用については、漁協の資源管理の取り組んで居る実態のお話を戴いたりとか、先進事例を元に議論をするという事をやって来ました。そして、第8回でこれらを取りまとめまして、それが「資料2」となっています。

今後、海域利用全般について、資源の管理、ダイビングの利用、観光の3つのテーマに分け、水産資源は資

源管理を徹底し協力的な体制を築き短期的に行うべきではないか、ダイビングの利用に対して試しに何カ所かにアンカーブイを設置しそこに係留する様にすればサンゴを痛めないでダイビングを出来ると言う事もありました。観光についても観光ガイドの方々によってマナーの向上に付いて勉強会をしっかりするべきでないかと言われていました。その他として海上交通のルールをしっかりと決め、近道は認めない、ショートカットをしない様にすると言うルールを調整会議で決めルール周知に取り組んでいるところであります。

何をやるべきかというのは、こういった形で大体出てきたのですが、では誰がどういった協力体制で行っていくのか、ということを議論するところで、それをこの海域対策ワーキングの中で行うのがいいのではないかととなりました。

また、参考としまして、生活利用部会の取組としましては平成24年度、石西礁湖のマップ作りをやっているということになりました。例えば、追い越し自粛区間などの交通ルールや、海域公園地区、オニヒトデ重点駆除区域、禁漁区など様々な情報をまとめたマップを作ることによって、一部に関心のある方にも他の情報が伝わるのではないかという期待感をもって取り組んでいきます。

参加者からの意見提案

(漁協) オニヒトデ、川平石崎の海面利用、アンカーブイの設置等様々な問題点について一つずつ解決策を取る必要があると思います。

(竹富町ダイビング組合) 石西礁湖自然再生協議会は、以前は石西礁湖と限られた会議でしたが、今回はさらに鹿野川方面、石垣は川平石崎の方も拡張されてきて竹富町ダイビング組合も話し合いにも参加してかまわないですね。以前は限られた地域だけが参加出来たんでこれからは、石西礁湖でなくて八重山地域として参加してよろしいですか。

(環境省) はい、もともと全体構想の時から石垣島、西表島を含めた地域を対象としており、八重山全体としての取り組みとして考えております。

(八重山ダイビング協会) オニヒトデ対策に関して今月に入って北部のビーチにオニヒトデが大量に上がりましてそれを、堆肥センターが搬入の際kgあたりいくらかの金額を払わないと受け取らないと言うのが有りまして北部支部が処理するのに困ったと言う話を聞きました。こう言う緊急を要する問題点で情報を交換したり何か対策が無いか急がなければならないと思います。

(漁協) 川平石崎の問題は、石垣市の観光関係考えて多くの観光客の事故など起きないように市でルール作りを推進していかないと観光事業に大打撃をうけるんじゃないかと思います。

(八重山ダイビング協会) 確実に出来ることは情報交換を共有して解決策を見いだしていけたらと思います。

(司会) 先程、環境省さんから小グループでリーダーを作って中心に動いたらどうかと言う意見も有りましてけれども誰がリーダーになっても具体的にどう動くか海域ワーキンググループでは、三つのテーマを案として取り上げてますけれども、もっと他に追加してやりたいことはないかと思ひまして。

(竹富町ダイビング組合) 海域対策なので海で一番切迫し問題になって居る事から解決していくと言う事でどうですか。全体でオニヒトデに取り組まないとサンゴの消滅により魚の住み家が無くなり食物連鎖が発生

しなくなると言うのが現実なんです。

また、離島に行くと見ますと漁師でない人が平気で貝を捕っていたりとか、漁師でないと捕ってはいけない物を大量に捕ってきたりするのを目にしますけれども、注意のしようがないんですよね

注意しても聞かないんですよ。何の権限も無いわけですから。海上保安庁なり取締りの権限のある側から注意してもらいたいですね。

(八重山ダイビング協会) 資源管理に関しても、漁協パンフレットなり、ダイビング協会、石垣市のホームページにも掲載しインターネットを利用して告知をもっと広げていくかそういう協力関係をこの場で話し合ってみてはどうですか。

(漁協) 川平石崎での過密なダイビングの展開の仕方からすると事故が起こってもおかしくないですよ。

(環境省) それぞれの立場によって、一番切迫している問題というのは違ってくると思うので、同時にいくつかの小グループが動く、というのでもよいかと思います。

(竹富町ダイビング組合) 川平石崎で過密になってしまって、事故が起きそうになっている。これは一人一人が注意すべき基本を守ればいいわけで、見ていたらやっぱり、ダイビングフラッグが上がっているこのダイビングフラッグの意味を良く知ってみんなダイビングしているのか、そういう基本的な事を完全に無視してしまっているのが現状です。

(漁協) 話し合いはやっていますから、今後もどんどんやっていきます。

(竹富町ダイビング組合) ここに来ている方々は、そういう意識が有るんですが、やっぱり色々勝手な解釈していると思うんですよ、徐行とか迂回とかというのは、船長の基本なんですけど、やらない人も居るって事です。

同時進行で、資源管理は漁協さんが中心となってやっていく、オニヒトデは漁協さんも協力してダイビングとやっていく、そういうやり方もあると思うんですけど。

(環境省) オニヒトデは自然の現象なので、自然からやるべきだってゆう話も有るんですけど、自然再生協議会はあまり自然に逆らってまで自然を変えるってゆうものではなくて、人為的な影響により何か悪影響を及ぼしているとか、そういう事から取り組んで行く方が現実的なんじゃないか。

(漁協) オニヒトデと同時進行でやって来て居るんですよ。

今、県も市も居ますので観光系の方もそう、ダイビングショップさんもルールを作らないと大きな事故になりますよ一人一人の問題じゃないんです、これは県、市、観光が一緒になってやらないと前に進まないと思います。

(司会) 海域の利用ってのは、生活利用に関する検討部会で協議していくんでしょうか。

マップ作りのみですか。

(港湾事務所) 生活利用部会では平成24年度マップ作りを考えています。今までは、何をすべきか生活利用部会で協議してきましたけれども、この海域対策ワーキンググループでは、何をやるから協力してほしいかっ

という意見から始まって、それに協力体制を築いていくという場にするとこのワーキングは良くなると思います。

竹富南航路周辺の追い越し禁止、ショートカットをしないって言う様なルールについては、港湾事務所としてしっかりやりたいと思ってますので、石垣港湾事務所に協力出来れば有りがたいと思います。

例えばその他に、資源管理については、漁協さんが一番、現にやっておられることだから、それをしっかりやるんだと、それについて漁協の誰を中心にやるか協力体制を築くことにしようかと。

(竹富町ダイビング組合) 航路の利用の件で、海面利用協議会でお話しさせて戴いたんですけども西表バラス島とか上原航路に関してお願いしたのは聞いていますか。以前西表は船浦航路という連絡船が船浦港に入っていましたが入る様になってから、バラス島周辺を通過してポイントエリアを高速船が通ってしまう為、その海域を利用しているダイビング船、もしくは、バラス島でシュノーケリングしている人が引き波で倒されたり、ボートを係留したブイが割れたり、ボートどうしがぶつかって割れたりした事例もあるので、今までは船会社に連絡してたんですが、港湾事務所さんが船浦航路、上原航路、海洋ルールの徹底を海面利用協議会の方でお話をして戴きたいと思います。

(港湾事務所) わかりました。これについて船会社とダイビング組合等との会があるので、そこへテーマにして交通安全をする、ルールとすべきかやってみます。

(竹富町ダイビング組合) 毎年ダイビング組合とシュノーケリングの参加者と別組合の方達と船会社に要請しているんですが徐行する船長さん全然関係のない船長さんも居るんです。終始徹底してくれれば問題はありません

(港湾事務所) わかりました。より細かいところは終わってからも。

(竹富町ダイビング組合) それは、生活部会でいいですよ。

(港湾事務所) 利用連絡調整会議が別途有りまして、船会社とか建設会社の作業船等が利用する場で調整します。

(石垣島マリンレジャー協同組合) オニヒトデ対策の件なんですけれども、4月から堆肥センターが1kg15円で引きとるって事になって、3月末までは無料引き取ってたんですけど、今月以降は駆除しても陸上に揚げたにしてもクリーンセンターは1日に搬入出来るキロ数が150kgでした。

実際駆除量が随分超えると思いますが、駆除がしづらいとか何か対策を取らないと、それこそ酢酸でしか駆除が出来ないとか、水中に袋詰めにしたものを何日か放置するか早めに対策方法を練って戴かないと大変なことになると思います。

(石垣島マリンレジャー協同組合) 予算がないと、オニヒトデ駆除してもどういうふうに処理しますか。焼却炉では一日150kgしか搬入を認めないとなると堆肥センターはkgあたり15円での引き取り、そうすると組合が駆除した2300kgべらぼうに高いよね。

(市水産課) 今、この場で市の担当に予算の話ししてもしょうがないから、こう言う場で市長に要望するとか話を持って言った方が宜しいんじゃないですか。

(石垣島マリンレジャー協同組合) この場で役所の関係者が入って居るんだから言った方が一番言い訳よね。その為のミーティングじゃないですか、その為の集まりですからボランティアで駆除してお金が発生した場合このお金誰が出しますかとなりますよ。どうしますか。

(漁協) 平野さん。ワーキング自体枝分かれして、オニヒトデ対策協議会で決まったら上に上げましょうねと問題を皆様で話し合う。皆さんで話し合い今話を代表少数で話し合っていきたい。それを持ち帰る。

(環境省) 行政に要望、そう言う場所でもあるし、それは行政がやるべき事は整理して取り組む。

行政にバックアップしてもらおうよう取り組む事とか、川平石崎の取り組みのようにダイビング関係事業者のグループに行政も係わっていく。

この二つの考えを、別なものとした方がいいのかなと思います。

(竹富町ダイビング組合) 少額ではありますが、サンゴ礁基金も、活用できます。

(八重山ダイビング協会) 堆肥センターの問題は早急に何とか改善策をしてもらわないと、オニヒトデはあつちもこっちからも出てくるんです。市の水産課は今年度の漁協との駆除では1kg 15円払って堆肥センターに持って行く予定何ですか。

(市水産課) いや、もう料金が発生するなら、クリーンセンターしか有りませんが、クリーンセンターは制限がありますので堆肥センターになると思いなす。

(八重山ダイビング協会) と、言う事はキロ15円払って堆肥センターに搬入するんですね。

(市水産課) はい、そう言う事になるでしょう。

(八重山ダイビング協会) 下地さん隣の宮古島市はどうしているのか聞いてもらえますか。宮古島市は市の責任で港まで、オニヒトデの回収をやってたって聞いたんですよ。それから、民間の肥料会社が引き受けて、木くずと混ぜて堆肥を作る。石垣市の方から聞いてもらえますか。

(市環境課) はい。

(司会) なかなか整理が出来ないんですけども、進め方もまとまらない。

(環境省) 最初はこんな感じで色々出してもらって。

(司会) 今回、事務局案と致しまして、海域対策ワーキンググループの主な検討課題と3項目挙げてますけど、それ以外に何か取り組みたいという事例ありますか。無ければこの3つを重点事項として今後どう言う風な形で取り組んで行くのか、オニヒトデは対策協議会を中心にすると言う事ですね。

(八重山ダイビング協会) いいんじゃないですか。3本の柱で。

(司会) 資源管理は漁協でやってますので、漁協と県、県がデータ取りをして、又ポイント決めマップ作りとか啓蒙普及もして頂く。海域適正利用は次年度以降も継続ですよね。川平石崎に限ってなので、石崎だけでいいのかですね。

(環境省) そうですね。川平石崎を中心に、鹿川湾などその他取組も。

(環境省) 環境省を中心にとする所で気に係るのが、国ばかりやっていいのかほんとは地元の自治体にも危機感を持ってほしいと思っているんですよ。

冒頭に与儀さんから話があった様に、特に石垣市の観光課さんは、予算的にも係留ブイの予算を要望する話も聞いていて、今言っている3つには全部県、市もついてやっていますが、もう少しそこが主体的になってもらえればと思います。

(司会) 今日ここに集まってもらっているメンバーは、このワーキングにどう関わっていくのがよいのか、どうしましょう。

(環境省) 今日この場で皆様の意見を聞くのは時間もないので、アンケートをとって、どこに取り組めるのかどうのを聞いて、グループごとに集まってもらうということでどうでしょうか。メールは協議会のメーリングリストを使って。

(環境省) 海域対策の時も言いましたが協議会メールを気楽に使ってもらえればと思ってます。それで海域の話だからってそこでまとまるんじゃないかって、みんなに共有してもらった方が良いので、あの場で議論やアンケートをとるという時に協議会メールを使用してもらえればと思います。

(八重山ダイビング協会) 協議会メールの中にワーキンググループを小分けにしないとだめじゃないですか。例えば、今日みたいな集まりのある前に、こう言うテーマで話し合ってもらいたいと言う件をメールで先に出しておいてもらえれば、少しは話が進行する。

(環境省) ですから、それを海域対策に居る方達だけに出さなくても全体に投げれば、他の方たちにもこういった議論が進んでいるというのが分かって良いのかなと思います。

(司会) 今日第1回目でなかなか一人一人の意見とか聞く時間がなくて、だいぶ時間も経過してますので、何でも結構ですので協議会のメールにご意見ご要望等がありましたら、とりあえず意見としてメールして頂いて、それをまとめてまた第2回の進め方とかまた、事務局が委員の皆様と相談しながら取りまとめていこうと思っております。

今日はどうもありがとうございました。これで海域対策ワーキンググループを閉会としたいと思います。